

## 平成 27 年度 第 2 回高岡市総合教育会議 会議録

I 日時 平成 27 年 9 月 9 日 (水) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 47 分

II 場所 高岡市役所 3 階 庁議室

III 出席者 高岡市長 高橋 正樹  
高岡市教育委員会  
教育委員長 河田 悦子  
教育委員 山崎 隆志  
教育委員 長谷田祐一  
教育委員 森 美和  
教育長 氷見 哲正

### 事務局関係

#### 総務部

総務課長

廣瀬由美子

総務課副主幹

木村 文徳

#### 福祉保健部

子ども・子育て課長

山田 晃

参事・健康増進課長

宮崎 晃一

#### 教育委員会事務局

理事・教育次長

長井 一弘

総務課長

戸田龍太郎

教育次長・学校教育課長

阿尾 行将

生涯学習課長

笹島 永吉

教育次長・文化財課長

高田 克宏

参事・体育保健課長

橘 正規

参事・福岡教育行政センター所長

谷内 則之

総務課副主幹

島田 輝

IV 傍聴者 1 名

## VI 協議の概要

### 1 開会

- ・ 市長あいさつ

〔市長〕

高岡市教育大綱策定の議論にあたり、今回は素案をお示しする。あくまでもたたき台であり、これに拘束されず、忌憚のないご意見をいただきたい。

### 2 協議事項

- ・ 高岡市教育大綱（素案）について

教育委員会事務局から、高岡市教育大綱（素案）について説明した後、次のような意見交換があった。

〔山崎教育委員〕

「学校・家庭・地域の連携」という言葉があるが、企業の役割も重要である。とりわけ子育てに関しては、企業の理解と支援が欠かせない。また、芸術文化は企業の支援によって育ってきたと言っても過言ではない。このため、企業の役割を盛り込んでどうか。

「学校規模適正化の推進」については、少子化や効率化の問題ではなく、本来、個性あふれる子どもたちが育つためには、一定の規模を有する教育環境が必要であるという思いがある。高岡市の将来を見据えながら、地域の核としての学校の適正規模について、市民を巻き込んだかたちで議論をしながら進めていくことが大事である。

「教職員研修の充実」に関して言えば、人間性豊かな先生こそが人を導くことができると思っており、学校の先生にはいろいろな意味での経験、いわゆる社会経験を積んでいただくことが必要と考えている。

〔森教育委員〕

未来を創造するのは人であり、その人をつくるのもまた人であり、それはすなわち自分自身である。その共通意識を市民一人ひとりにもってもらい、高岡市の人づくりへの姿勢をみんなに理解してもらうことが大綱を策定する意義ではないかと考える。

学校教育の項目の中に「自ら学び考える力の育成」という言葉があるが、これを家庭教育の中でも意図的に行う必要があると思っている。欲しい情報がすぐ手に入り、知識はどんどん増やせるが、実際には見たり体験したりしたことがない子どもが多い。親は子どもを失敗させないようにしがちだが、親自身が子どもを

育む時間をしっかりともち、失敗なしでは考える力は育たないということを教えるべきである。失敗から得た経験は本人の大きな財産になり、工夫して乗り切る力を自然と身につけていくと思う。これが生きていくうえで必要な力だと思う。

私たちの世代は、手間や時間をかけて「創造」することの楽しさを知っているが、今の子はたくさんある物の中から選ぶだけで、愛着心や達成感、満足感を知らずに大きくなっている気がする。平成27年度全国学力・学習状況調査において、中学校では全国、県と比較して無回答率が高いという結果が出たとのことであるが、何かをつくることは楽しい、無から有を生み出すことは楽しいということを知れば、課題にぶつかったときにもっと意見も出ると思う。

〔市長〕

高岡の風土には、「創造」ということが常にあったと思っているが、そのことが表に出る場面が少なくなっている。失敗を恐れ、チャレンジしなくなり、予定調和的になってしまっている。地方創生の議論においても、つくり出すという視点が大変重要なことではないかと考える。

〔長谷田教育委員〕

基本方針1については、小中一貫教育が全国的に推進され、制度化もされたという状況であるため、小学校と中学校の連携ということを挙げてはどうか。また、道徳教育の充実にもぜひ取り組んでいただきたい。

基本方針2については、子育て支援は重大な課題であり、女性が働きやすい環境をつくるのが急務である。ただ、そのことが一層の晩婚化、少子化を招くという悪循環の心配もあり、その先をどうするかを考える必要がある。高岡市も核家族化が進行し、高齢者だけの世帯も増えているため、そうした高齢者の方々の力をうまく活用する施策が必要と考える。

基本方針4については、ふるさと教育がしっかり行われていれば、まちづくりや人づくりの大きな力になると考える。

〔河田教育委員長〕

大綱の中身を表すテーマとして「未来創造のための人づくり」という言葉は、よい表現であると思う。4つの基本方針も大変分かりやすい。

基本方針1については、学校教育に携わる人たちに対する研修についてふれたらよいと思う。

基本方針2については、地域で子育てを支え合うことや、学校・地域・家庭の連携の大前提となる家庭の教育力の部分をもっと取り上げればよいと思う。平成27年度全国学力・学習状況調査でも、家庭での時間の使い方や家庭学習の課題が明らかとなったところである。

基本方針3については、芸術・文化・スポーツは、質的なにぎわいにもつなが

るため、大変重要な視点である。市民憲章の中に「技と生きがい」という言葉があるが、この視点があれば、より素敵な生涯学習社会につながっていくのではないかと思う。若者や女性をターゲットとすることには異論はないが、基本方針4に関連する部分もあると思う。

基本方針4については、自分の拠って立つ部分をいかに誇りをもって語れるか、いかに心の立脚となる部分をもっているかということが、誇りあるふるさとの創造につながると思う。歴史の中で高岡の伝統に裏付けられたものが、さらに新しい未来の創造につながるのであり、「伝統」という言葉が入ればよいと思う。「観光」がキーワードの一つとなっているが、にぎわい創出は、人々のふれあいや絆の拡がりによって大きな意味をもつのではないかと思う。そういった意味では、「観光」というよりは、「交流」を重点に置いたほうがよいと思う。

[市長]

観光資源を教育の中でどうこうするというのは確かにそぐわないかもしれないので、交流という観点のほうがよいのかもしれない。私の経験から言えば、子どもたちが観光客と接することで刺激を受けたり何らかの役割を果たしたりしながら成長していく姿はあるのではないかと思う。それを表現の中でどう工夫できるのか検討したい。

[市長]

一通りご意見をいただいたので、私から意見を申し上げたい。まず、これまで教育の分野で行ってきた様々な取り組みによって、どのような子どもたちを育ててきて、どのように社会を変えてきたのか、その成果実証が必要と考えている。

ものづくり・デザイン科については、職業や学校の選択のきっかけになったという話も聞いており、子どもたちに何らかの影響を与えてきているのではないか。そして、高岡全体ではどういうことが起こっているのか。そういうことについて、10年の節目として成果を評価し、検証して次のステップに結び付けるという作業はぜひ必要であると思っている。

子どもたちの教育環境については、安全・安心であることは最低限必要な対策として、学校施設の耐震化を進めてきた。そうした中、快適さを求めるものとしてエアコン設置の要望があるが、いろいろと考えるべき課題があると思っている。

学校規模の問題については、子どもたちが社会や組織の中で生きていくためには切磋琢磨が必要であり、協力や協調などいろいろなものを学んでもらうためにも適正化という課題に取り組んでいかなければならない。一方で学校の選択や校区の問題についても連動しながら考える必要がある。

小学校と中学校の連携ということについては、それぞれの小学校や中学校がどういう特色を持とうとするのかということが大事なポイントではないかと思う。

〔教育長〕

学校教育については、今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、児童生徒の「学習意欲」ということについてさらに踏み込み、粘り強く課題の解決に取り組む意欲を育てる必要があると考えている。

学校規模適正化については、平成24年12月に策定した「高岡市立学校規模適正化の基本方針」に基づき、現在、具体的な方向に進める準備を進めているところである。指摘のあった小中一貫教育については、制度としても認められたものであり、学校規模適正化の選択肢になり得る要素であると認識している。

観光についての表現は、さらなる検討が必要である。現在、小中学生の夏休みを中心に行っている「英語フレンドシップ」は、高岡を訪れた外国人に、英語で高岡の名所を案内することをねらいとした事業であり、子どもたちも観光・交流の一翼を担っているといえる。

ふるさと教育については、自分が生まれたふるさとを学ぶことは、教育の根幹に当たるものだと考えており、高岡市では特に力を入れているところである。小学生には「わたしたちの高岡市」、中学生には「高岡」という副読本を配布し、自分たちの住むまちについての理解を深めてもらっていることに加え、ものづくり・デザイン科という、ふるさと教育そのものといえる授業を行っている。ものづくり・デザイン科は、高岡の職人の技を実体験できることや、一人ひとりの作品が出来上がることに意義があると考えている。成人を迎えても作品を大事にしているという話も聞いており、10年目に当たり、その成果を検証しているところである。

〔市長〕

教育委員会制度の改正の議論の背景の一つに、不登校やいじめなどへの対応についての議論があったと思うが、最近の学校の取り組みは。

〔教育長〕

先般、岩手県で起こったいじめを苦にしたとされる中学生の自殺を受け、教育委員会では、各学校のいじめ防止基本方針がしっかりと機能しているか再確認することを各学校に指示したところである。

いじめについては定義を広くとらえ、からかいや悪ふざけに見える行動でも、もしかしたらいじめではないかという観点で、多くの教員の目で見ることが大切である。各学校においては、ケース会議を毎週行い、気にかかる子どもについては、保護者に連絡を取るなどの目配りをしている。また、教育委員会においても指導主事が実際に学校の様子を見て助言するなどのきめ細かい対応に努めている。

いじめの防止に向けては、学校だけではなく地域社会の協力を得ることや家庭との連携が必要であり、その推進を図りながら取り組んでいるところである。

〔市長〕

いじめ防止の取り組みについては、行政との情報の共有化、いわゆる「見える化」が必要であると思っている。取り組みの成果や点検の結果を踏まえ、今後の方向付けをしていくことも必要であり、そのことが家庭の安心にもつながると考える。

〔市長〕

教員の資質の一つに、必要な知識を伝え、学級を運営していく「指導力」があると思うが、私は何よりも、子どもの個性や人格を尊重することが大事であり、一人ひとりの能力を見抜く力、いわば「人間力」が必要であると思っている。これは大変難しいことであると理解しているが、教員の指導力の向上にはどのように取り組んでいるのか。

〔教育長〕

社会経験が多く、「人間力」豊かな教員は、確かに良い教員であり、一人ひとりの子どもに応じた接し方ができるはずである。指導のテクニックのみをどれだけ研修しても駄目であり、根底にあるのは、子どもたちを人間として受け止めることができる先生をどう育てるか、これが基本である。

教員研修の内容としては様々なものがあり、例えば、教員 11 年目を迎えた者が特別支援学校や企業などで一定期間の研修を受けるものや、若手の教員が高岡の名所を実際に訪れるものなどがある。

〔市長〕

学校あるいは先生が閉鎖的でなく、社会に開かれていることが大事である。学校の中で何かあったときには社会と共有する。また、そのことが社会でどう評価されるのかということを目ざから意識してほしいと思っている。その延長の話であるが、学校では家庭教育について、どのように関わっているのか。

〔教育長〕

富山県教育委員会の取り組みで「親を学び伝える学習プログラム」というものがあり、本市の P T A 連絡協議会等でそれを取り入れた活動を行っている。

〔河田教育委員長〕

家庭での過ごし方については、家庭での勉強時間よりも、家族一緒に地域でいろいろな体験をすることが少なくなっていることが問題だと思う。自然豊かな富山県の子どもたちが、全国平均よりも自然体験が少ないという数字が出ている。また、挨拶など子どもたちへの声かけが不審に思われるようなこともあり、社会

問題が子どもに跳ね返っていると感じている。そういう意味では、社会全体で人を育むことが大切であり、先ほど意見があったような高齢者の方々の協力をいただくという視点も重要と考える。

〔市長〕

家庭との関わりについては、学校の時間と家庭の時間を受け持つ者が時間によって異なり、互いにコミットしないのではなく、学校と家庭の間で情報共有されている状態をつくるべきと思っている。子どもが発するシグナルを学校の中でどのように共有し、家庭へ引き継ぐのか、また、家庭からの反応をどのように受け止めるのか。そのようなことについての仕組みづくりはできないであろうか。

〔河田教育委員長〕

家庭教育や子育てについては、生涯学習の分野で様々な取り組みを行っており、その中でも本市のPTA活動は素晴らしく、特に広報紙が優秀である。広報紙は子どものいる家庭だけではなく、全世帯に配布されており、地域と子育て家庭をつなぐ懸け橋になっている。また、公民館活動においても、地域の方と子どもたちがふれあう機会が充実している。こうした取り組みは一朝一夕では成し得ないものであり、高岡の誇るべき財産として、ぜひとも大事にしていきたい。

〔市長〕

ご指摘のような素晴らしい取り組みが行われる仕組みが確立されており、それによってうまくいっているということを標榜することが大事であり、それを意識して組み立てていくことも重要と考える。

### 3 その他

- ・ 次回の開催について

次回の会議で成案を示すこととし、開催時期は12月下旬とすることを確認した。  
(日程調整の結果、11月25日に内定)

### 4 閉会